目 次

要旨	·· 1
第1章 公的年金の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·· 16
第1節 はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	·· 16
第2節 公的年金財政の枠組み	•• 18
1 公的年金の体系	•• 18
2 基礎年金財政の仕組み	·· 21
3 厚生年金財政の仕組み	·· 23
(1) 厚生年金財政の仕組み	·· 23
(2) 厚生年金勘定の収支の構造	·· 27
(3) 厚生年金の実施機関たる共済組合等の厚生年金保険経理の収支の	の
構造	·· 29
4 国民年金(国民年金勘定)財政の仕組み	·· 31
5 国民年金と厚生年金の関係	·· 32
6 年金改定の仕組み	•• 33
(1) 本来の年金改定の仕組み	•• 33
(2)給付水準調整期間中の年金のスライド(マクロ経済スライド)の	の
仕組み	·· 35
(3)過去の物価スライド特例への対応 ・・・・・・・・・・・・・・・・	·· 37
(4) 平成 30 年度の年金額の改定	•• 38
第3節 被用者年金制度の一元化	•• 39
1 これまでの経緯 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•• 39
2 被用者年金一元化における積立金の取扱い等	·· 43
(1)積立金の仕分け ······	·· 43
(2) 積立金の運用	·· 45
参考 被用者年金一元化に伴う積立金概算仕分け結果	·· 47

第2章	財政状況	50
第1領	筋 被保険者の現状及び推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	50
1	被保険者数	50
2	男女構成	52
3	年齡分布	53
	(1)年齢分布	53
	(2) 年齢分布の変化 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	56
4	厚生年金の1人当たり標準報酬額 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	66
5	厚生年金の標準報酬月額別被保険者数の分布 ・・・・・・・・・・・	71
6	厚生年金の標準報酬総額・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	76
7	厚生年金の年齢階級別標準報酬総額(推計値)のコーホート分析 ・・	77
	(1)分析方法	77
	(2)分析結果	78
第2領	節 受給権者の現状及び推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	82
1	受給権者数	82
	(1) 受給権者数 ······	82
	(2) 受給者数 ······	84
2	受給権者数の年金種別別構成	85
3	年金総額	88
	(1)年金総額	88
	(2)年金総額の年金種別別構成	92
4	老齢・退年相当の受給権者	93
	(1) 老齢・退年相当の受給権者数の推移	93
	(2) 老齢・退年相当の受給権者の男女構成及び平均年齢	94
	(3) 老齢・退年相当の受給権者の年齢分布	95
	(4) 老齢・退年相当の平均年金月額	96
	(5) 老齢・退年相当の平均年金月額の分析	98
	(6)本来支給、特別支給の平均年金月額	100
	(7) 老齢・退年相当の平均年金月額の推移	102
	(8) 老齢・退年相当の平均加入期間	105
	(9) 老齢・退年相当の新規裁定者	106
	(10) 被用者年金の平均年金月額の減少要因	110

5	老齢(退職)年金の年金月額別の受給権者数
第3節	財政収支の現状及び推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
1	一元化後の財政収支状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
2	平成 30 年度の単年度収支状況 123
3	平成 30 年度の共済組合等の経過的長期経理を含む単年度収支状況 ・128
4	収入の推移
	(1)保険料収入130
	(2) 国庫・公経済負担 ······138
	(3) 追加費用
	(4) 運用損益 ······144
	(5)運用利回り ······145
5	支出の推移 ・・・・・147
6	運用損益分を除いた単年度収支残149
7	積立金
8	基礎年金制度の実績(確定値ベース)158
9	厚生年金制度の実績(確定値ベース)163
第4節	財政指標の現状及び推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・166
1	年金扶養比率
2	総合費用率(従来の「厚生年金相当部分に係る総合費用率」)とその
	分解
3	保険料比率及び収支比率 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・172
	(1)保険料比率172
	(2) 収支比率
4	積立比率

第3章 員	財政検証・財政再計算結果との比較 ··························178
第1節	財政検証・財政再計算結果と比較することの意義と手法 178
第2節	財政収支等の実績と将来見通しとの比較
1	人口要素
	(1) 合計特殊出生率
	(2) 平均余命、生残率 ·····181
2	経済要素184
	(1)物価上昇率184
	(2) 賃金上昇率 ······186
	(3)運用利回り191
3	被保険者数等
	(1) 労働力率
	(2) 就業率
	(3) 被保険者数 ······201
	(4) 厚生年金の標準報酬総額及び1人当たり標準報酬額
	(5) 受給者数 ····································
4	収入 211
	(1)保険料収入 212
	(2)国庫・公経済負担 ····································
_	(3)運用損益 218 土山 218
5	支出 219
	 (1)給付費 ····································
	(2) 基礎年金拠出金(確定値ベース) ······ 221(3) 厚生年金拠出金及び厚生年金交付金(確定値ベース) ····· 227
	(4) 実質的な支出
6	積立金 ····································
第3節	
	年金扶養比率 ····································
1 2	中金伏養比率 233 総合費用率とその分解 236
2	総合貨用率とその方牌 238 保険料比率 238
4	収支比率
- 5	積立比率 ····································
0	

第4節 積立金の乖離分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
1 乖離分析の方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
2 乖離分析の結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(1)平成 30(2018)年度発生分の分析結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(2) 平成 30 (2018) 年度までの通期での分析結果 ······ 255
第5節 厚生年金に係る財政状況の評価
1 財政状況の評価の考え方 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・260
2 厚生年金に係る財政状況の評価結果
参考1 平成30年度末積立金の財政検証等による将来見通しとの
乖離の要因分解について(技術的補遺) ···············267
参考2 「評価の基準となる積立金額(推計値)」の算出方法
(技術的補遺) ····· 285
参考3 保険料収入現価の算出と賃金上昇率の違いの補正の方法
(技術的補遺) ····· 289
付属資料
1 公的年金制度の沿革 292
(1) 公的年金各制度の成立過程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
(2)保険者及び保険料算定単位
2 公的年金制度一覧 ······295
3 財政収支状況
(1) 厚生年金相当部分の財政収支状況
(2)共済組合等の職域加算部分等を含む財政収支状況
4 長期時系列表 ····································
(1) 公的年金各制度の被保険者数等の推移
(2) 公的年金各制度の受給権者数等の推移
(3) 公的年金各制度の収支項目等の推移
(4) 公的年金各制度の収支状況
(5)公的年金各制度の財政指標の推移
5 最近の経済等の状況6 用語解説354
6 用語解説
参考資料
平成 30 年度財政状況報告(制度所管省報告内容)
 ・厚生年金保険(第1号)
 ・国家公務員共済組合 ····································
 ・地方公務員共済組合
 私立学校教職員共済制度
・国民年金・基礎年金制度
要旨(英訳)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・